

愛知県には、美術館、歴史博物館、科学館、それから動物園にいたるまで、多種多様な博物館が数多くあります。それらの施設には学芸員、または研究員と呼ばれる専門職員がいるわけですが、県内の近くにいる同じ専門職員なのに、一緒に仕事をしたり、交流を持つ機会はなかなかありません。当館でいえば、展覧会を共同で開催する他県の美術館の学芸員さんや、展覧会を共催で運営する新聞社やテレビ局の事業部の方との仕事のほうが圧倒的に多いです。

愛知博物館協会は、まだ当館が愛知文化会館だった時代、そして博物館が少なかった時代の1964年、学芸員の交流の場として加盟館11館で愛知地区博物館連絡協議会を発足し、なんと40年以上の歴史があります！現在、加盟館は約130館を数え、研究会を開いたり、その成果として合同で展覧会を行ったり、講演会・研修会を開催して知識、技術を共に学び、情報を交換しています。

本年度から新たに、調査・研究、教育・普及、修復・保存という学芸員の日常の仕事区分別の研修会をすることになり、先日の2月5日、調査・研究部門の研修会が「ワークシートの作成・活用術」というテーマで行われました。

ワークシートは、展示物への理解を深めるため、単なる解説ではなく、クイズがあったり、観察して絵を描いたり、展示を見ながら使用するものです。このワークシートの多くは学芸員お手製です。研修会場には加盟館のワークシートが展示されていましたが、デザイナーやイラストレーターに作ってもらうことは予算が許さず、試行錯誤の様子。



↑会場内に設けられたワークシートの展示コーナー 色とりどりのワークシートが並んでいます

今回の研修会では、日本全国の博物館のワークシートについて研究を重ね、ワークシート作りの仕事もされているデザイナー木下周一氏をお招きし、ワークシートのあり方や自らのワークシート作成経験などをお話いただきました。



↑木下氏ご自身が作成されたワークシート（千葉中央博物館生態園）を一例として示してくださいました

その後、碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館、徳川美術館、愛知県美術館のワークシートの実践例を報告しました。碧南の水族館では、小中学生の理科の授業の一環としたカリキュラムが定められ、それに即したワークシートが作成されていました。徳川美術館では美術館キャラクター「よしなおくん」が登場する子供を対象にしたガイドが月ごとに発行され、これを集めている子供もいるそうです。

当館については、教育・普及を担当しているK学芸員が、所蔵作品のワークシート、美術館と県内の学校の先生で組織された美術鑑賞教育のワーキンググループによって作成されたワークシートや展覧会の鑑賞ガイドを紹介しました。



↑当館からの報告 K学芸員の分かりやすい説明は普段の団体鑑賞対応の賜物！

所蔵作品のワークシートは木下氏にも評価されていました（嬉しい！！）ので、皆さんもぜひ手にとって見てくださいね。学芸員はついつい情報を詰め込み、文字が一杯のガイドやワークシートを作ってしまうがちですが、当館のワークシートは、ひとつひとつの作品の見てほしいところ、知ってほしいところが、きちんと絞りこまれた優れものなのです！



↑クリムト《人生は戦いなり（黄金の騎士）》のワークシート 切り抜かれた穴でポイントになる画面の細部を示しています



↑展示室にワークシートのラックがあります ぜひ手に取ってみてください！

さて、次回の調査・研究部門の研修会は2月18日(木)13:30?17:30 愛知芸術文化センター12F アートスペース EFにて行われます。テーマは「事業としての調査・研究—博物館のあるべき姿を探る—」。

事業の実施ばかりに重点を置くのではなく、調査・研究という博物館学芸員本来の仕事の重要性を見直す研修会です。学芸員だけではなく、特に文化行政に関わる人にも参加してほしい研修会。一般の方も含め、まだ参加人数に余裕がありますので、ご関心がある方は当日直接会場へお越しください。

問い合わせ 愛知県美術館企画業務課森 (tel:052-971-5511 内線 325)

また修復・保存部門の研修の一環として歴史講演会が行われます。こちらは一般の方も参加可能。

3月6日(土) 15:00-16:30 愛西市佐織公民館3階研修室 「廃藩置県と近代日本」講師松尾正人氏
(中央大学教授)

要入場整理券(佐織公民館にて2月13日(土)9:00-整理券配布 一人3枚まで)

問い合わせ 愛西市教育委員会社会教育課 tel 0567-37-0231(内線 181)

(MRM)